

1 病院全体の指標

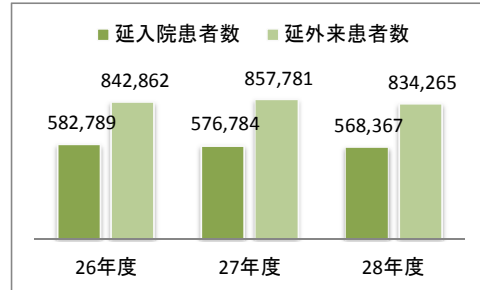
■ 延入院・外来患者数

内容

1年間の延べ入院患者及び1年間の延べ外来患者の数です。

延べ入院患者数：退院患者数＋当日未入院患者数
延べ外来患者数：初診患者数＋再診患者数

	26年度	27年度	28年度
延入院患者数	582,789	576,784	568,367
延外来患者数	842,862	857,781	834,265



■ 平均在院日数

内容

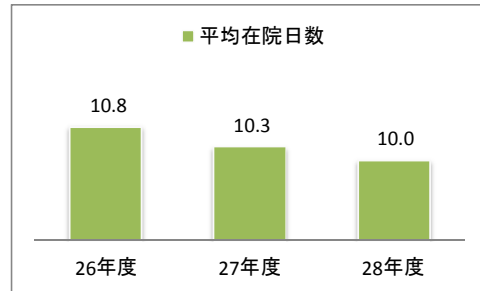
1人の患者さんが平均何日間入院しているのかを示す指標です。地域の医療機関と連携などによって、短期間で退院できるよう努めています。

分子 延在院患者数

分母 (新入院患者数＋退院患者数)÷2)

※亜急性期病床、地域包括ケア病床を除く

	26年度	27年度	28年度
平均在院日数	10.8	10.3	10.0



■ 病床利用率（運用病床）

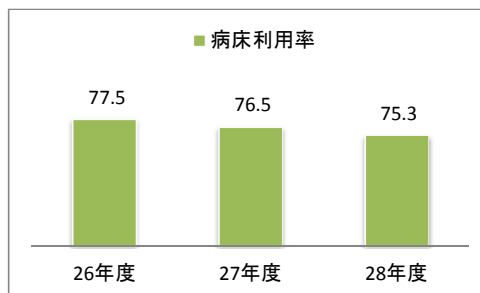
内容

病床利用率とは運用病床数に対し、入院患者がどのくらいの割合で入院していたかを示す指標であり、病床利用率が高いことは、ベッドを効率的に運用していることを表しています。

分子 延入院患者数

分母 延運用病床数

	26年度	27年度	28年度
病床利用率	77.5	76.5	75.3



■ 剖検率

内容

当院で死亡された患者さんの中で病理解剖がなされた割合です。病理解剖は死亡の原因や治療の効果を確かめ、今後の医療に役立てていく意義があります。

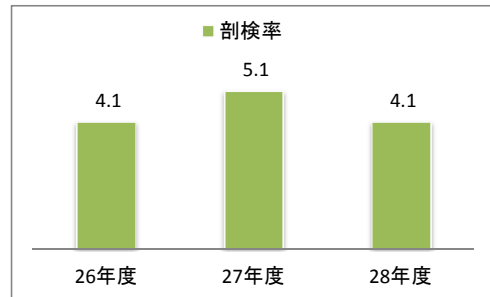
分子

年間剖検数

分母

年間患者死亡数

	26年度	27年度	28年度
剖検率	4.1	5.1	4.1



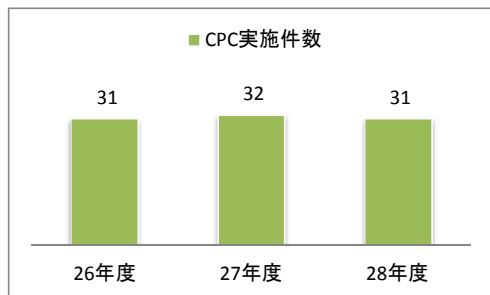
■ CPC実施件数

内容

医療の質向上を図るために行っている、勉強会の1つであるCPC（臨床病理検討会）を開催した件数です。

※CPCとは…Clinico-pathological conference
（臨床病理検討会）

	26年度	27年度	28年度
実施件数	31	32	31



■ クリニカルパス実施件数

内容

入院から退院までの治療や処置、検査、看護などのスケジュールを時系列に示したクリニカルパスの作成を通じて、わかりやすく均質で無駄のない医療の提供に努めています。

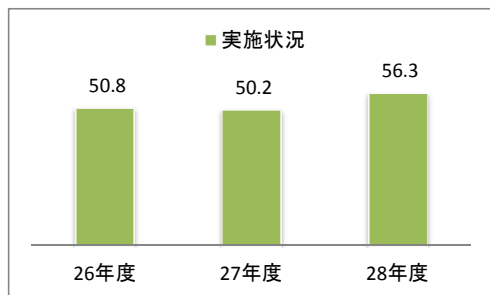
分子

パス適用件数

分母

新入院患者数

	26年度	27年度	28年度
実施状況	50.8	50.2	56.3

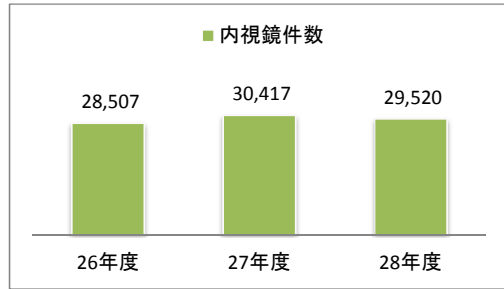


■ 内視鏡検査件数、主な処置件数

内容

内視鏡検査と治療の件数です。検査については、①食道、胃などの上部、②膵臓・胆管、③気管支、④大腸などの下部に種類を分けております。

	26年度	27年度	28年度
内視鏡件数	28,507	30,417	29,520



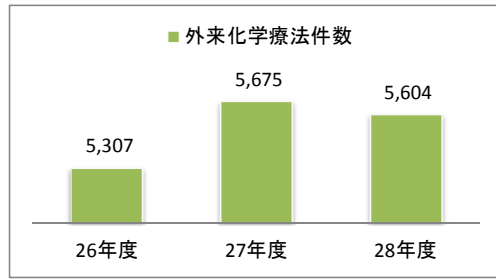
2 がん医療に関する指標

■ 外来化学療法件数

内容

抗がん剤を使用した化学療法の件数です。外来での治療は自宅での生活を続けながら治療を行うことができるため、精神的、経済的な負担低減にも寄与します。

	26年度	27年度	28年度
実施件数	5,307	5,675	5,604

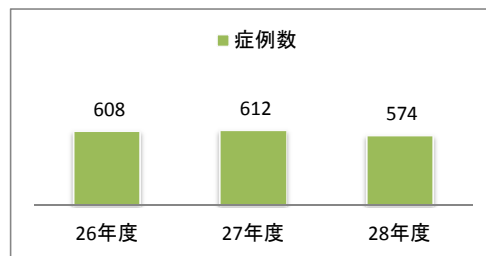
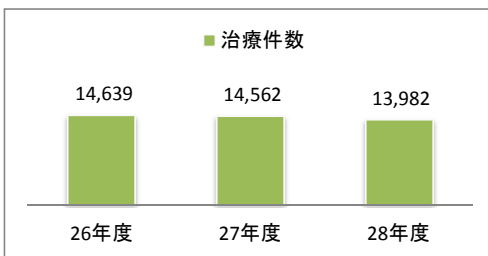


■ 放射線治療件数、症例数

内容

放射線は手術、抗がん剤とともにがん治療における重要な役割を果たしています。リニアック等の放射線治療装置を使用して、放射線治療を行った件数及び症例数です。

	26年度	27年度	28年度
治療件数	14,639	14,562	13,982
症例数	608	612	574



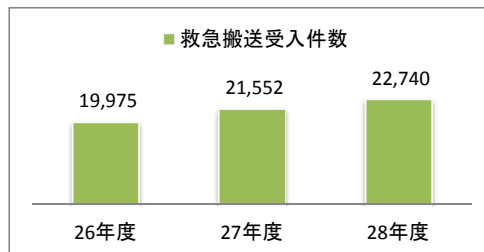
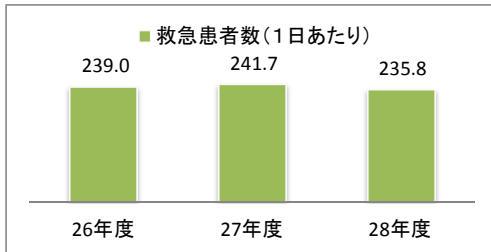
3 救急医療の指標

救急患者数（1日あたり）、救急搬送受入件数

内容

救急医療は当院の重点医療のひとつであり、休日・全夜間診察事業を引き続き実施するなどし、積極的な患者受入に努めています。

	26年度	27年度	28年度
救急患者数(1日あたり)	239.0	241.7	235.8
救急搬送受入件数	19,975	21,552	22,740



4 放射線および検査に関する指標

緊急対応可能検査項目数及び緊急対応可能検査項目数の割合

内容

院内で実施する検査のうち、救急患者や入院患者の急変などに対応し、院内で緊急に行える検査がどのくらいあるかを表しています。

	26年度	27年度	28年度
検体検査	64.8	61.6	67.7
生理検査	85.7	86.9	87.1

緊急検査のTAT（ターンアラウンドタイム）

内容

TAT（ターンアラウンドタイム）とは検体が検査科に来てから検査結果が確定するまでの時間のことです。検査結果を迅速に報告することで、医師が治療方針を早期に決定することができ、医療の質向上に寄与します。

	26年度	27年度	28年度
検体検査（分：秒）	30：56	31：54	30：02

CT、MRI、血管造影、マンモグラフィの検査人数

内容

検査の中でも件数の多い、CT、MRI、血管造影、マンモグラフィそれぞれの検査患者数です。

	26年度	27年度	28年度
CT	63,860	65,512	65,878
MRI	34,979	34,777	32,158
血管造影	3,109	3,050	3,278
マンモグラフィ	6,060	6,698	6,746

■ 臨床検査に係る精度管理調査評価評点

内容

日本医師会は、総タンパク、ブドウ糖、尿酸など検体検査40以上の検査項目について、サーベイを実施した結果の項目修正点数(100点満点)です。日臨技は、検体検査、微生物、輸血、生理、病理、細胞など180以上の評価項目について、サーベイを実施した結果の望ましいとされる評価A、評価Bの件数の割合です。

	26年度	27年度	28年度
日本医師会	99.3	99.0	98.7
日臨技	99.6	99.4	99.4

■ 放射線科医師による読影レポート数

内容

放射線科の医師による専門的見地から、検査結果に基づいた画像診断・助言を行っている件数です。

	26年度	27年度	28年度
レポート数	145,231	145,115	137,011

■ ME機器点検実施件数

内容

ME機器の使用時の故障を未然に防ぎ、検査の安全性を保つために、使用前や使用后及び一定の期間毎に行っている点検の件数です。

	26年度	27年度	28年度
実施件数	63,208	61,328	65,132

5 薬剤に関する指標

服薬指導件数（入院・外来）

内容

患者さんへの薬物療法の効果や副作用などの説明・アドバイスを通じて、患者さんの薬物療法への理解を深めるとともに、より安全で効果的な薬物療法を受けられるよう薬剤師が活動した件数です。

	26年度	27年度	28年度
入院	82,734	82,849	87,807
外来	42,205	38,937	34,193

入院

入院服薬指導業務指導件数

外来

外来服薬指導業務指導件数

ジェネリック使用率

内容

当院における入院医療で使用される全薬剤のうちジェネリック（後発医薬品）の割合です。ジェネリックは開発コストが大幅に削減されているため、先発医薬品に比べると安価になるなどの特徴があります。

	26年度	27年度	28年度
使用率	69.7	77.9	87.6

※数量とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

分子

後発医薬品の数量

分母

「後発医薬品のある先発医薬品の数量」
+ 「後発医薬品の数量」

薬剤師による抗がん剤等のミキシング数（処方箋枚数）

内容

薬剤師が安全キャビネットなどを使用して、抗がん剤のミキシングを行った処方箋枚数です。

	26年度	27年度	28年度
入院	8,087	9,484	8,780
外来	5,434	5,875	5,892

6 栄養に関する指標

■ 栄養指導件数（個別・集団）

内容

患者さんに対して、医師の指示により管理栄養士が食事療法について説明し、食生活改善の支援を行っております。個人の生活スタイルに合わせた個別指導と教室形式で行う集団指導があります。

	26年度	27年度	28年度
個別	15,941	15,879	16,185
集団（回数）	680	571	588
集団（人数）	2,819	2,508	2,527

■ 栄養サポートチーム（NST）活動件数

内容

栄養サポートチーム（NST）とは栄養管理を管理栄養士、医師、看護師など様々な医療スタッフによって支援・実施するチーム医療のことです。定期的にメンバーによる回診等を行い、患者さんの状況を確認して適切な栄養療法を検討しています。

	26年度	27年度	28年度
回診回数	278	301	314
延人数	1,315	1,526	1,774

■ お楽しみ食提供回数

内容

献立に祝祭日や季節感を取り入れるなど、お楽しみ食のメニューを充実させることで、患者さんへ憩いのひと時を提供し、患者さんの視点に立ったサービスを提供しています。

	26年度	27年度	28年度
提供回数	280	272	307

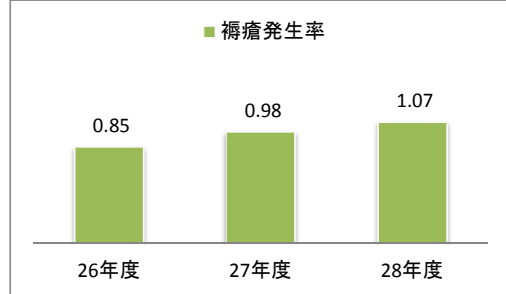
7 看護に関する指標

褥瘡発生率

内容

褥瘡とは、長時間の圧迫などにより皮膚が循環障害を起こし傷となる、いわゆる「床ずれ」の状態をいいます。当院では、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など様々な職種により構成される褥瘡対策チームが中心となり治療・ケアをして褥瘡発生防止に努めています。この褥瘡発生率は看護ケアの質評価の重要な指標とされています。

	26年度	27年度	28年度
褥瘡発生率	0.85	0.98	1.07



分子

院内の褥瘡発生数

分母

調査月の新入院患者数+前月最終在院患者数

看護師の離職率

内容

看護師離職率が低いことは、病院に慣れた看護師により安定的かつ質の高い看護が提供されているとともに、看護師にとっても働きやすい環境であることを表しています。

	26年度	27年度	28年度
離職率	11.0	10.6	13.3

患者・家族のケア満足度

内容

入院、外来の患者さんに当院の看護師の対応についてアンケートを行った際に、「十分」、「ほぼ十分」と答えた方の割合です。今後も高いケア満足度を目指して医療サービスの向上を図っていきます。

	26年度	27年度	28年度
ケア満足度	83.8	86.5	84.7

8 医療安全に関する指標

■ 転倒・転落率

内容

入院している患者さんの中には年齢や病気の影響により、転倒したり、ベッドなどから転落したりする可能性が高い方もいます。転倒・転落の原因や要因について分析等を行い、予防策を講じて、転倒・転落を防いでいます。

	26年度	27年度	28年度
転倒・転落率	0.29	0.34	0.25



転倒・転落件数



期間中の入院患者数

■ 医療安全研修・情報セキュリティ研修

内容

職員の医療安全意識の向上を図るとともに、病院全体の医療安全を向上させることを目的とし、医療安全研修や情報セキュリティに関する研修を実施しています。

	26年度	27年度	28年度
医療安全研修	100	94	91
情報セキュリティ研修	33	46	59

9 地域連携に関する指標

■ 紹介率、返送・逆紹介率

内容

他の病院または診療所から紹介状により紹介された人の割合（紹介率）及び当院から他の病院または診療所に紹介した人の割合（逆紹介率）です。当院は地域医療支援病院に指定されており、そのための要件の1つにもなっています。今後も地域で信頼される病院作りに努めていきます。

	26年度	27年度	28年度
紹介率	69.6	68.4	71.8
返送・逆紹介	71.7	74.0	79.2

【紹介率】



紹介患者数+救急患者数



初診患者数

【返送・逆紹介率】



返送・逆紹介患者数



初診患者数

地域連携パス実施数

内容

患者さんの病気の回復過程に応じて、急性期・回復期・維持期・在宅療養における治療と必要な情報が切れ目なく推進するための診療計画を作成し、治療を受けるすべての医療機関で共有して用いています。診療にあたる複数の医療機関が、役割分担を含め、あらかじめ診療内容を患者に提示・説明することにより、患者さんが安心して医療を受けることができるよう努めています。

	26年度	27年度	28年度
パス使用患者	331	305	388

医療従事者等研修会開催数、広報誌発行部数

内容

地域の中核病院として、地域の医療機関への情報提供等を積極に実施しています。

	26年度	27年度	28年度
研修会開催数	157	156	217
広報誌発行部数	54,840	55,025	53,350

連携医数、高額医療機器の共同利用件数

内容

連携医として登録をしている地域の医師、歯科医師の数及びMRI、CT、RIなど的高額医療機器を連携医と共同で利用した件数です。地域医療支援病院として地域との連携強化を引き続き図っていきます。

	26年度	27年度	28年度
連携医数	5,673	5,751	5,826
共同利用件数	13,982	13,945	13,263

10 医療サービスに関する指標

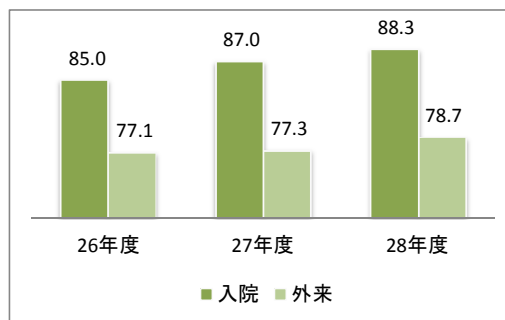
患者満足度

内容

当院が提供する医療サービスに対して、患者さんがどのように感じているかを把握し、その結果を反映していくことで、医療サービスの一層の充実を図るために実施しています。引き続き、高い患者満足度を維持・向上できるように努めていきます。

「あなたは全体としてこの病院に満足していますか。」という問いに対し「満足」「ほぼ満足」と回答した割合（入院・外来）

	26年度	27年度	28年度
入院	85.0	87.0	88.3
外来	77.1	77.3	78.7



11 医師・看護師・コメディカルの資格等に関する指標

内容

当院には各学会等で認定された、高度な知識や技術、経験を持った職員がいます。より質の高い医療サービス提供のため、多くの職員が認定を取得していくよう、人材の育成に取り組んでいます。

[資格者一覧はこちら](#)

|

|